

# Funehiki High School News vol.124

## ～がんばる船高生～ **ATTENTION!** 第4回 アクティブリーダーの渡邊宙人さん・諸根茉琴さん

「アクティブリーダー」をご存じですか？ 第2回でお伝えしたように、本校では7月から「地域復興～アクティブリーダー育成プロジェクト～」を立ち上げ、本校生30人が都路地区の復興状況取材してきました。そして11月15日、山形県立左沢高等学校で取材結果を発表、より良い地域社会のあり方について左沢高校の生徒と協議しました。

今回は、アクティブリーダーのうち、店などの商業に関する班で活動した渡邊宙人さん（2年、常葉中出身）と諸根茉琴さん（1年、船引中出身）に、活動に対する率直な感想を聞きました。



渡邊 宙人さん

—都路の人が経営している「ホットハウス」取材しました。お話を聞いて、お店を経営していないと分からない悩みがあるのだと感じました。

僕が班の発表者だったのですが、発表2日前にリハーサルで先生方から指導を受け、原稿や資料を直したのが大変でした。発表では、時間が足りなかったために急ぎょ発表内容を省略しましたが、うまくつなげることができたと思います。

活動を通じ、将来は地元に戻り、働きながら地元の盛り上げたい、という思いを強くしました。都路訪問の際、「都路スイーツゆい」のプリンなどをみんなで食べたのが、良い思い出です。

諸根 茉琴さん



—私は「よりあい処 華」取材しました。民家を改装したお店なので、まるで自宅にいるような居心地を味わうことができる場所です。最初はどんなことから聞いたらいいか悩みましたが、お話を伺うと、地元の人が一人一人、復興に向けて努力していると感じました。

取材結果をポスターにまとめる作業では、先生方から手直しするよう指導を受けましたが、一からやり直したのが心に残っています。ポスターを作成する段階で、取材結果を整理するのが楽しかったです。

活動で得た経験を、今後の高校生活や将来に役立てたいです。

### ◆修学旅行 in 沖縄

高校生活最大イベント、2学年の修学旅行。今年は10月18日から21日までの4日間、沖縄へ行ってきました。台風発生中にもかかわらず、旅行中は天候に恵まれ、首里城見学、平和学習、そして伊江島の民泊で沖縄の人たちの温かさに触れ…と、一生の思い出ができたようです。



#### ●松本拓巳さん（大越中出身）の感想

僕はこの旅行で、戦争について学びました。平和祈念公園の石碑には、沖縄戦で命を落としたたくさんの人たちの名前が刻まれていました。驚いたのは、全国から来た日本兵の名前だけでなく、アメリカ兵の名前も刻まれていたことです。それは、国内外すべての犠牲者に追悼の意を表し、今日平和であることの幸せと尊さを再確認するためなのだと思います。戦争を体験した語り部の方の講演もお聞きし、戦争は二度と起こしてはいけない、そして命を大切に生きていこうと強く思いました。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233  
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...[funehiki-h@fcs.ed.jp](mailto:funehiki-h@fcs.ed.jp)

## 田村で暮らす幸せ



Nicole Moore  
ニコル・ムーアさん  
(アメリカ合衆国  
メイン州出身)

田村市に来て1年目



11月8日 要田小学校

日本で暮らすことが、私の長年の夢でした。子どものころに日本に興味を持ち、大きくなってから2度日本を訪れて、いつか日本で働きたいと考え始めました。大学卒業後、日本での仕事を探し始め、田村市でアメリカ人英語教師を募集していることを知った時、すばらしい機会にとっても興奮しました。採用された時はとてもうれしかったですね。

今年の4月、ついに田村市に来ることができて、とても感動しました。私の故郷は小さい町だったので、同じような田村で生活することはとても気に入っています。特に好きなのは、自然が豊かなこと。私はよく、川の近くをおしゃべりしながら散歩しています。春には桜を楽しみました。たまに片曾根山に登り、頂上から景色を眺めます。田村の美しい自然を見ると、故郷を思い出して、穏やかな気持ちになるんです。

私は今、田村の子供たちに英語を教えるという、とても素晴らしい経験をさせてもらっています。学校の先生方は好意的で一緒に働きやすいですし、子供たちはいつも元気で楽しそう。職場での楽しみは、子ども一人一人を知ること、子どもと一緒に学ぶことです。

日本のライフスタイルもたくさん学んでいます。これからも日本語や日本の文化について、もっと学び続けたいですね。日本のことを知るたびに、日本で働くという夢がなくなった幸せを、私は実感するので。

## 海を越えて 英語指導助手ペンリレ No. 54 特別編

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていることなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

## 理解する楽しみ

日本に来てから8カ月が過ぎました。私は今、中学校などで子どもたちに英語を教えています。

田村市の生徒はみんな、とても親切ですね。そして、英語の勉強に熱心で、いつも英語の学習に一生懸命取り組んでいることがよく分かります。彼らはとても教えがいがあります。日本人の英語の先生方と一緒に教えるのも楽しいですよ。

また、中学校の部活動に参加したり、生徒がスポーツの大会で頑張っている姿を見たりしました。彼らの努力を間近で感じてうれしかったですね。

田村では、食事や買い物など、どこにでも歩いて行けるのがいいですね。歩けば、ゆっくりと田村の街並みや自然を感じます。



Rachel Denenberg  
レイチェル・デンバーグさん  
(アメリカ合衆国  
コロラド州出身)  
田村市に来て1年目



11月8日 船引中学校

例えば、船引町を流れる大滝根川沿いは、川と草木が美しいですね。春らんまんの桜の美しさは格別でしたし、夏は色彩豊かな草花の美しさに心を奪われながら、長い日中を楽しみました。

これから冬がやってきます。寒さは私の故郷ほどではないと思いますが、冬は冬で、田村の美しさを楽しみたいです。

ここに住んでから、毎日のように新しい発見があります。日本の日常生活や文化に触れるたび、日本や田村について理解が深まり、そして田村の人たちとふれあうたび、日本人や田村の人についての理解が深まっています。それは私にとって大きな楽しみの一つです。